



## 政策推進会議フィールドワーク

# 地方路線活性化の取り組みについて意見交換

JR九州労組は、JR連合の政策提言の関係者への理解浸透、JR九州に係る政策課題の共有や実態の把握、また、各地本・支部役員の方々の政策活動への積極的な参画等を目的にフィールドワークを実施している。今年度は、会社が昨年10月の改正地域交通法施行後に、存続か廃止かの前提を置かず、未来志向で沿線自治体と将来の地域公共交通のあり方を議論したいとの意向を表明した指宿枕崎線の現地視察と指宿枕崎線の活性化に取り組む民間団体「南九州鉄道プロジェクト」との意見交換を5月22日に実施し、政策推進会議のメンバーが参加した。

現地視察では、JR指宿枕崎線の鹿児島中央～枕崎間に乗車し、各駅間のお客さまの乗降状況、ダイヤ、線路の状態、駅や駅周辺の設備や環境などを確認した。また、復路は枕崎～鹿児島中央間をバス移動することで、それぞれの交通機関の利点・欠点を実際に比較して体感した。

意見交換会では、冒頭にJR九州労組側からJR連合・JR九州労組が取り組む交通重点政策の「改正地域交通法の趣旨に基づく真に持続可能な交通体系の構築に向けた政策の実施」について提言の説明を行った後、南九州鉄道プロジェクトの代表を務められている中原水産株式会社の中原晋司氏と同プロジェクト事務局長の葛岡克紀氏から活動の紹介や活動を通して分析されたデータの説明を受けた。中原水産株式会社は、枕崎市に拠点を置くかつお節加工品の開発・販売を行っている会社であるが「鉄道を持たない鉄道事業」を立ち上げ、事業として旅行コンサルティング、ローカル鉄道に係るシンポジウム・フォーラムへの参画、イベント列車の企画・運営などを行い、指宿枕崎線の価値を伝える取り組みを行っている。当日の説明の中では、鉄道が枕崎エリアに与える広告宣伝効果など、金額として目に見えないものを定量化して見える化することの重要性が提起され、一方で定量化できないマイルール意識や指宿枕崎線に携わり共に生きる人たちの誇りや生きがいなども考えていかなければならないと述べられた。質疑では、「様々な活動をされているが、行政をどうやって巻き込んでいくのか」「肥薩線の復旧のキーワードとなった鉄道の日常利用の創出についてどう考えるか」「指宿枕崎線の線区のあり方に対する協議会をどう受け止めているか」など数多くの質問が出され、中原代表から各質疑に対して丁寧な答弁が行われた。

最後にJR九州労組の大久保浩書記長が「JR九州は発足以来、地域と共に発展することをモットーとしてきた。地域の持続的な発展が会社の持続的な成長に繋がると考えている。ただし、どのような施策を進める中でもステークホルダーがwin-winであることが大切である。地域の皆さまと共に知恵を出し合い、よりよい九州の未来をつくっていききたい。」と挨拶を行い、意見交換会は締めくくられた。JR九州労組は、今後も様々な組織の方々と意見交換を重ね、知見を得ながら政策活動を推進していく。



最南端である理由で訪れる人も多い枕崎駅



南九州鉄道プロジェクトの説明を受ける様子



中原代表、葛岡事務局長と当日の参加メンバー